

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人 尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成26年11月19日	評価結果市町村受理日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=287
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館 6階		
訪問調査日	平成26年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、外出行事や散歩等では四季折々の景色が楽しめる。 ・窓から外を眺めると、悠然と空を飛ぶコウノトリの姿や前の田んぼで休憩する姿を見る事が出来る。 ・利用者一人ひとりに寄り添い、日々「笑顔で楽しく」過ごせるよう支援している。 ・ご家族との連携を密に行い、信頼関係の構築に努めている。 ・特養・デイサービスが併設しており、交流しやすい環境にある。また、機能低下しても特養への入所も検討しやすく、ご家族は安心されている。 ・研修や委員会・行事等も施設合同なので、利用者にとっては交流の場が増え、職員にとっても視野が広がる機会となっている。
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営母体の社会福祉法人の中で事業所の位置づけが確立しており、職員研修や委員会活動、災害時対策や行事が合同で行われている。家族会を通じて家族との信頼関係が深まっている中、職員同士のコミュニケーションも良く、事業所内に明るい雰囲気を醸し出している。広い室内やリビングからコウノトリの飛ぶ姿や四季の移り変わる景色が楽しめる他、外出の機会を多くする取組など、ひとり一人の思いに寄り添う支援が行われている。引き続き地域密着型サービス事業所としての役割やグループホーム事業所の力を活かした更なるサービスの質向上への取り組みに期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、グループホームとしての理念を常に目に入るところに掲げ、日々のケアに活かしている。	”笑顔で楽しく”を理念として、管理者はじめ全職員で共有している。玄関入ったところに掲示し、いつでも見えるようにしている。毎日のケアで実践するために、ユニット会議にて理念について全職員に話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には参加していないが、施設行事時には地区の方の参加が多数ある。また、グループホームからも地域の行事には参加させていただいている。 高校生のボランティア受け入れも行った。近隣の小学校、幼稚園との交流もある。	地域のボランティアの来訪がある。自治会への加入はしていないが、日常的に近所への買い物や小学校のマラソン大会の応援などに参加している。地区のふれあい喫茶に利用者が参加するなど、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての活動は行っていないが、見学者やボランティアにはグループホームの特徴等の説明をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	急な異動があり、きちんとした運営推進会議は実施出来ていない。まず利用者・家族との信頼関係の構築を図る為、ほぼ毎月家族会中心の会議や行事を実施した。それらの情報はケアに活かしており、今後は地域の方や市の職員を含めた会議を実施したいと考えている。	運営推進会議の開催は不定期であるが、家族会は毎月開催されている。今後は地域の方や包括支援センター・介護保険課等の参加を得て、広く外部の方々の目を通して事業所の取り組みについての意見を伺うなど、運営推進会議の重要性と位置づけの再認識が求められる。	管理者は運営推進会議の必要性を認識しており、今後は作成された開催計画に基づき地域の方々やボランティア、民生委員や包括支援センター等との連携を図りながら、会議の定期開催を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	異動当初は参加できていなかった地域密着型サービス事業者連絡会にも最近は職員と一緒に参加できている。今後も参加したいと考えている。	豊岡市の事業者連絡会に参加し、情報交換や意見交換、研修などを通じた交流と情報収集を行っている。今後についても、他の事業所や市担当との連携強化により、サービスの質向上に向けての協力関係構築への取組を考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関を施錠しているが、日中は施錠していない。また、身体拘束の研修を行い、ユニット会議でも周知している。	法人全体での各種研修が行われる中、身体拘束に関する研修も行われており、各ユニットの職員に対しての意識の共有が図られている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスク委員による虐待防止の研修に参加している。参加できない職員に対してグループホームのリスク委員より周知している。また、内服薬の見直し等も随時行っている。	高齢者虐待防止についての重要性は管理者はじめ全職員は認識している。法人のリスク委員による研修が定期的に行われており、職員に対する虐待防止教育はユニット会議や日々のケアの中で徹底される取組を行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域密着サービス連絡協議会で成年後見制度を学ぶ機会があった。現在、利用者1名が制度を利用しており勉強になった。他の利用者の家人から相談があれば活かしたいと考える。	連絡協議会等で、この制度利用について、学ぶ機会があった際には、ホーム内で他の職員にも伝達研修を行い記録する等も大切。権利擁護に関する制度については、パンフレットや研修を通じて職員の理解を高めるための取組も必要。	権利擁護に関する制度を利用されている方がおられることもあり、制度を理解、活用することについての支援ができる職員を育成し、定期的な研修やパンフレットの整備などの取組みを望みたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接には管理者と介護リーダーが訪問している。居宅ケアマネジャーとも連携を図り、利用者や家族の不安を除去できるように努めている。契約時には疑問や不安が残らない様十分な説明を行っている。	事前面接に際しては、管理者と介護リーダーが自宅へ訪問し、直接本人家族から、話を聞いている。また、ホームの見学の際にも、十分に説明を行い、理解と納得を図れるよう配慮して契約を行っている。利用開始時にはいつでも疑問に答えるように配慮している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会し易い環境作りに努めた。また、家族同士が交流できるように家族会参加を呼び掛けた。毎月の様に家族が集まることで家族間の会話もスムーズになった。面会時には積極的に利用者の状態報告を行った。意見要望は引き出せていないが、あれば運営に反映させたい。	家族から採れたての野菜を頂くなど、家族との交流を大切にしている。家族会を行うことで、その中での話から意見や要望を聞き取りすることに加え、日頃から本人家族と職員が話しやすい環境づくりに心がけており、常に話を伺う機会を作っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の場や年に一回ある自己評価を基にした面談で職員からの意見の聴取を図っている。職員がやりたいと思うことについては、出来るだけ挑戦させたいと思っている。	運営に関する意見等について、毎月のユニット会議だけでなく、日々の業務の中でも話し易い環境作りに配慮しており、管理者や介護リーダーは、職員が悩みや問題をひとりで抱え込まないように注意している。タイムスケジュールについて、職員の意見を検討後、変更するなど意見を現場に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回、職員と施設長との面談の場を設けている。労働時間、やりがい等各自が向上心を持って働ける様、何かあれば社労士に相談しながら職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の時はエルダー制度を設け、一年かけて成長を見守っている。長寿の郷からの派遣研修や施設内外の研修にも参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は無かったが、市の地域密着型サービス事業者連絡会で同業者との交流が図れるようになり、サービスの質の向上につなげていきたい。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面接を行い、不安や要望を伺うようにしている。入所後も関わりを密にし、安心して暮らせるための関係作りに努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時に家人の意向を伺っている。また、入所後も安心できるよう状態報告に努めている。面会時や家族会では、信頼関係が築けるよう積極的に話しかけている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの面談時からグループホーム入所が適切なのか、併設の特養が適切なのか情報収集に努め判断している。事前面接時にも担当ケアマネージャーから情報収集を行い、見極めに努めている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の思いに寄り添い、共有できるように支援している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族がゆっくり過ごせる環境作りに努めている。ご家族からの情報収集や状態報告を行い、利用者の現状を共有してもらっている。自宅への帰省等も協力して頂いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特養入所中の親戚や知人に会いに行ったり、グループホームに来ていただいたりして関係を継続させている。自宅周辺のドライブや自宅外出の支援も行い、本人家人も喜ばれている。	以前からの馴染みの関係を大事にするため、利用者の自宅周辺へ出かけたり、生活していた町並みを車から眺めながら話をするなど、馴染みの場所との関係継続支援に取り組んでいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しそうな利用者に対しては、職員が間に入ってコミュニケーションを図っている。コミュニケーションが困難な利用者でも皆の輪の中で過ごせるように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養入所になっても面会に行ったり、グループホームに遊びに来て交流が図れている。面会時や施設行事の際に、ご家族に出会った時には声を掛けさせて頂き、困った事はないか尋ねフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や担当が中心となり本人の思いに寄り添えるよう努めている。困難な場合はユニット会議で相談し、本人本位のケアが適う様検討している。	言葉による表出など、自らの意思が表現しにくい方には、日々のケアの中での生活習慣やリズムを見ながら、本人の意向に沿うように対応している。また、対応が難しいケースでは、ユニット会議で相談し、家族からの話を聞くなどして本人の思いや希望に沿うように取組対応している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家人から出来るだけ詳しく生活歴や暮らし方を収集し、共有している。入所以降でも新情報の把握に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前の様子、午後の様子、夜間の様子、受診、面会、外出等と、パソコン入力の場合記録や連絡帳で現状の把握を行っている。特変時には赤字で入力する為、把握しやすい。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当と計画作成担当者が本人家人からの意向を伺い、カンファレンスで職員と一緒に検討し作成している。目標達成計画に掲げた、一人の利用者に絞ったカンファレンスも開催できている。月に一回のモニタリングも出来ている。	介護計画の作成については、カンファレンスでの話し合いの記録や、家族からの要望や本人の希望等についての記載は重要であり、モニタリングの内容が介護計画へ反映されることが大切。	本人が笑顔で楽しく暮らすための介護計画を作成するため、毎月のモニタリングの内容の検討や、カンファレンスの記録に、本人家族からの意見等も記載されたチームでつくる介護計画の作成が望まれる。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録や担当による毎月のモニタリングで情報を共有し、カンファレンスで話し合い、介護計画の見直し時に反映している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員からのやってみようと思う提案には、まず挑戦させている。そこから又何が生まれると思う。失敗しても良いから、何かを掴み気付けてほしい。事業所として出来るだけ応援する。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問がある。小学生との交流も図れており、楽しめている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のかかりつけ医に定期受診し、家人にはその都度状態報告し安心を得ている。かかりつけ医との関係も良好で、急変時には往診を受けたり、専門医への紹介もして頂けている。	契約時にかかりつけ医についての希望を聞き、要望に沿った対応をしている。日々の健康管理や入退院時の情報連携、緊急時の対応などの医療支援を行っている。利用者の健康管理は定期的な往診によって行われており緊急時や病院への受診については、職員が付添い情報提供等に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務であるが、日中は常時看護師がおり、困った事は相談できている。夜間は電話での指示も受けられる状況である。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を提供している。入院中は面会に行き、家族との連携も図っている。退院前のカンファレンスがあれば参加し、退院後のケアにつなげている。	利用者が入院した場合には、面会に行くと共に、必要な情報を共有できるように配慮している。退院が近づくとカンファレンスに参加をして退院後の生活について具体的なケアの内容などについて確認し、医療機関との協働により、利用者の入退院がスムーズに行えるように支援する。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に施設で出来る事出来ないことを本人・家人に説明し、意向を伺っている。その後の身体レベルの変化に合わせ、その都度意向に変化はないか尋ねるよう努めている。	事業所として、重度化や、終末期に向けた方針については契約時に管理者が説明を行っている。実際にその状況が近づいてきた場合には、本人、家族やかかりつけ医、関係者とも相談しながら日々の暮らしの中でのケア内容について話し合い、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止研修に参加している。また、緊急時対応マニュアルがあり、目につく所に置いている。事故発生時には事故報告書を作成し、職員間での共有を図り事故予防につなげている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難訓練を実施している。消防署員が来所し訓練の指導と消火器の使い方の訓練も受けている。以前の水害時には、施設で地域の方の避難を受け入れた。	日頃からの火災避難訓練について、ホームでは、法人と合同で行う訓練と単独で行う訓練を行っている。また水害時には地域の避難場所として避難者を受け入れている。	地域の中での事業所の存在は明確であり、地域のボランティアの協力等も得られているので、今後は、地域(近所)の方々の協力も得ながら行う避難訓練、災害対策について準備、実施をされることが望ましい。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症があっても常に敬う気持ちで接するように指導している。慣れてくると、他者の中でも平気で排泄の声掛けをする職員がおり、その都度注意している。 接遇研修を計画している。	一人ひとりのプライバシーの確保や、個々の尊厳を尊重した言葉かけを行うことは重要なことであり、日々のケアの中でしっかり意識して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の何気ない会話の中から、本人の思いが引き出せるように努めている。入浴時や買い物時は利用者とマンツーマンで関われる為、良い機会ととらえている。買い物も本人の希望に沿い、好きな物を選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	稀に職員のペースになる事はあるが、その人のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力も得ながらその人らしい身だしなみができるように支援している。たまにはマニキュアを塗っておしゃれを楽しんでいる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせて調理の手伝いやテーブル拭き等の手伝いを依頼している。嗜好調査で一人ひとりの好みを知り、食事が楽しめるように支援している。家族会では、おはぎやお好み焼きを利用者家人と一緒に作り楽しんでもらった。	1週間ごとのメニューを利用者と一緒に考え、栄養士の確認をとりながら、利用者は昼、夕食の調理を手伝っている。家族会では、おやつ作りを家族、利用者、職員で行い食事を楽しむ支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士に確認してもらい、問題があればその都度指示がある。食事についてはその日の状態に合わせて代替えもしている。水分摂取量が少ない時は職員間で申し送り、こまめに提供し確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを実施している。月に一回、歯科医の往診があり、困った事があれば診て頂ける。歯科医による口腔ケアの研修も開催して頂いた。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを設置して、オムツ使用の削減に努めている。また、業者から排泄研修を受け、現在その方に合った排泄用品の見直しを行っている途中である。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、尿意のない方も全員トイレでの排泄を行っている。排泄研修を受けるなど、利用者のおむつ使用を減らす取組を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はこまめに勧めている。食事に海藻類やキノコ類、乳製品、食物繊維の多い物を提供できるよう配慮している。また、運動会やレクリエーション等で身体を動かせるように努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援を実施している。グループホームには個浴しかないが、扉を隔てて近くにデイサービスの寝台浴や座浴があり、状態に合わせて使用している。 入浴拒否する方には無理強いする事無く、時間を置いたり日にちを変えて対応している。	週に2回の入浴支援が行われ、身体状況に応じて法人内の特殊浴槽での入浴等の支援もしている。ゆず湯やスキナペープを使用したり、温泉に出かけたりと入浴を楽しむ工夫に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて休憩や安心して気持ちよく眠れるように支援できている。使い慣れた毛布を持参したり、室温調整にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書をファイルし、いつでも目につく所に置いている。薬の内容の変化や状態の変化があれば申し送りノートや朝礼簿に記入し、職員間で共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に伺った生活歴や知り得た情報を活用し、その方に合った楽しみ事の支援ができるように努めている。また、好き嫌いがあっても外食なら食べたり、家人と一緒に食べたり出来る事から、気分転換も大切であるととらえている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員が利用者の希望を伺い、希望に沿った支援ができるように努めている。行事担当職員は、季節に合わせた外出の計画を立て実行している。天気の良い日には、グループホームで飼っている犬の散歩に出かけている。	年に3回計画的に全員で、温泉や季節の花見に出かけている。個別に、買い物、食事、公園や神社、花見など希望に沿って支援している。天候に応じて散歩に出かけるなど、戸外に出かける機会を多く持つように努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理であるが、外出時等に本人が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーション時に絵手紙を作成し、ご家族に送った。電話については、希望時には希望に添えるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁にはレクリエーションで作成した物や写真を飾り楽しめるようにしている。共用スペースが広く椅子やソファを置いて、好きなように過ごせるように配慮している。窓からは景色を眺めたり、飼っている犬を見て穏やかに過ごせるように支援している	共有スペースはゆったりしており、ソファや可動式の畳台など、それぞれ好みの場所で過ごし、台所からは昼食のにおいが漂い、カウンターには季節の花が飾られて庭の木々や山々の景色が望め四季がゆったり感じられる工夫がされている。カウンターの飛び交う様子も窓から楽しめる。加湿器が適所に配置され、適切な空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに個人の椅子があったり、畳台・ソファがありそれぞれが好きな場所で過ごせるように工夫している。また、畳台で寝転がったり、主婦だった利用者は台所で過ごす事も多い。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から使い慣れた物を持って来たり、写真を飾ったりして、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	居室は広く、家具、座椅子、家族の写真や習字などが飾られ、掃出し窓から見える風景と共に利用者の個性や好みを活かして、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故予防にセンサーマットや介助バーを活用している。グループホーム内部は段差もなく安全に過ごせるように配慮している。		